

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	金砂郷町立金砂小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	8	17	13	20	18	17	2	95	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力を身に付けた児童生徒の育成(指定校区)

～基礎・基本の確かな定着を図り,学ぶ意欲や態度を育てる支援の工夫～(本校)

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

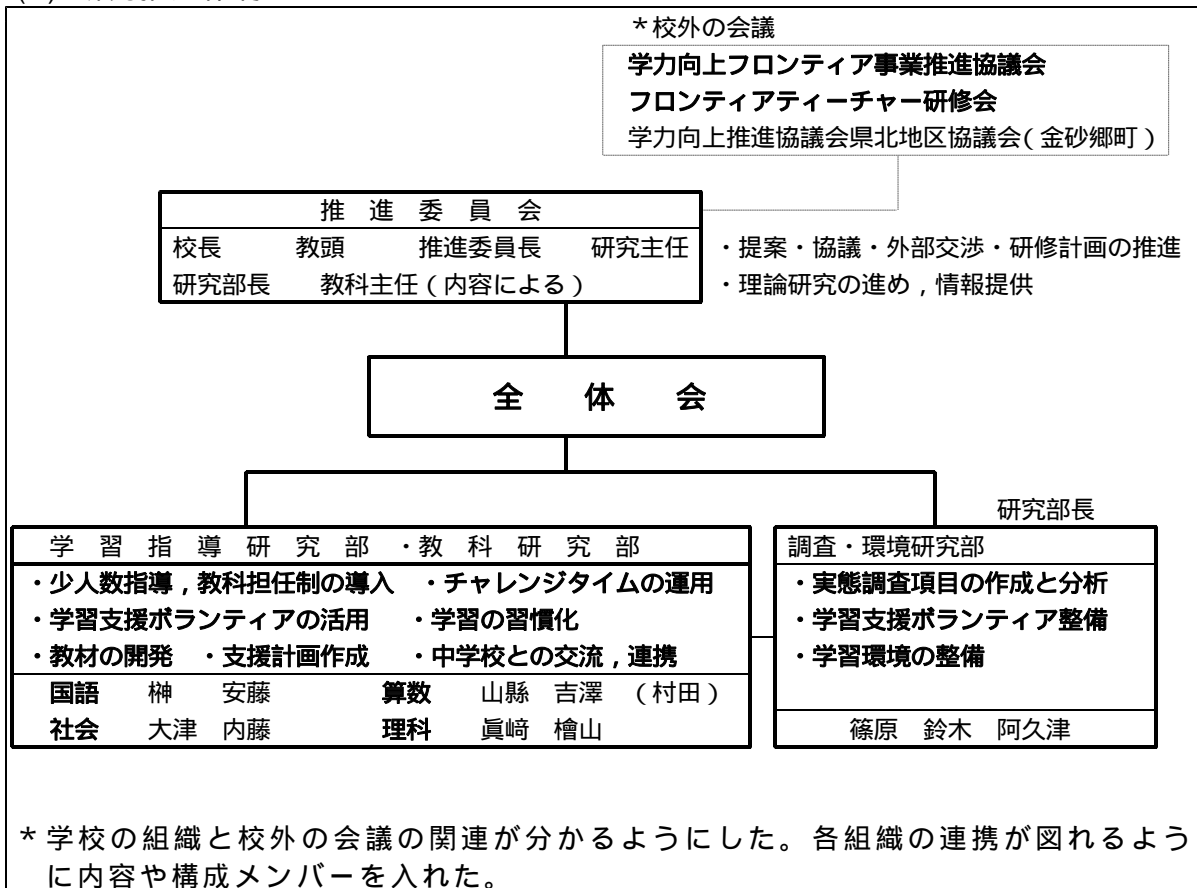
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・算数 「学力診断のためのテスト」の結果から理解度に差があり,学校全体として取り組む必要性があったため</li> <li>・5,6年・理科 児童一人一人の課題解決学習において教師の専門性を生かし,多様な指導法の研究を推進するため</li> <li>・3,4年・社会 地域に詳しい専門的な知識のある教師が指導することで,児童の地域社会に対する見方,考え方を高めたいと考えたため</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 ～基礎・基本の確かな定着を図り,学ぶ意欲や態度を育てる支援の工夫～</li> <li>○ 仮説 児童の実態をつかみ,小規模校のよさを生かした個に応じたきめ細かな指導の工夫改善に努めれば,児童一人一人に基礎・基本の確かな定着が図られ,学ぶ意欲や態度が身に付くであろう。</li> <li>○ 研究内容・方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)指導方法・指導体制の工夫改善 少人数指導の導入(コース別指導,習熟度別指導)と指導体制 教科担任制の導入と指導体制 習熟を図るためのチャレンジタイム(読書,計算,漢字,音読)の運用 社会人や保護者等の学習支援ボランティアの活用と整備 学習の習慣化 中学校との交流,連携 研究に対する児童,教師,保護者の実態調査項目作成と分析 学習環境の整備</li> <li>(2)教材の開発 補充的・発展的な学習の教材開発</li> <li>(3)評価を生かした指導 児童の実態調査と分析 評価規準をもとにした個への支援計画の作成</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>○ テーマ 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 ～算数科における単元構想の実践を通して～</p> <p>○ 仮説 児童の実態から単元を構想し，小規模校のよさを生かした個に応じたきめ細かな指導の工夫改善に努めれば，児童一人一人に基礎・基本の確かな定着が図られ，学ぶ意欲や態度が身に付くであろう。</p> <p>○ 研究内容・方法</p> <p>(1) 指導方法・指導体制の工夫改善 単元構想と少人数指導（コース別指導，習熟度別指導） 学習の習慣化 チャレンジタイム（読書，計算，漢字，音読）の運用 指定校区の小中交流，連携 教育環境の整備（学習支援ボランティアの整備・学習相談室・備品資料の充実・指導資料の充実）</p> <p>(2) 教材の開発 補充的・発展的な学習の教材開発（コンピュータ活用も含めて）</p> <p>(3) 評価を生かした指導 児童，教師，保護者の実態調査項目作成と分析 評価規準をもとにした個への支援計画の作成</p> <p>* 15年度の成果と課題から，研究内容を焦点化して取り組めば，共通理解が図られ，個に応じたきめ細かな指導がよりいっそう充実すると考え，本校の研究のテーマを変更した。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

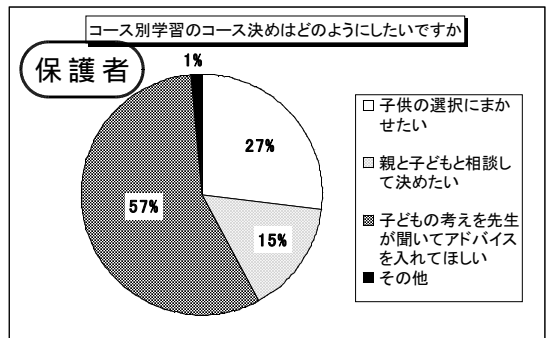
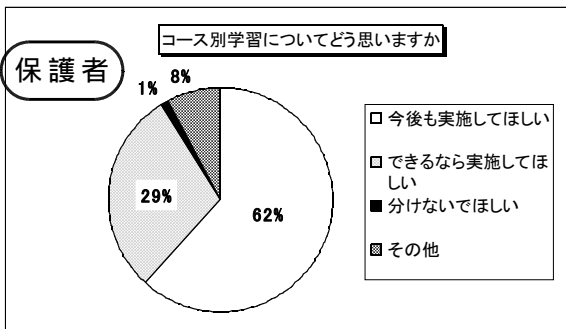
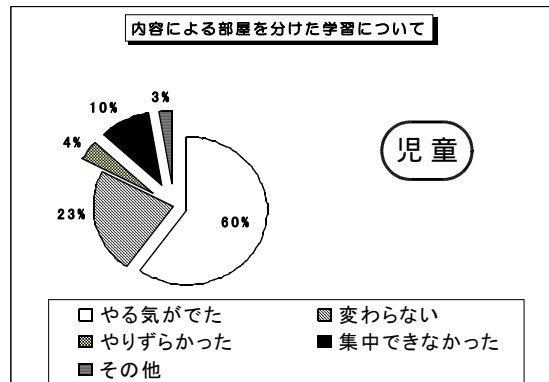
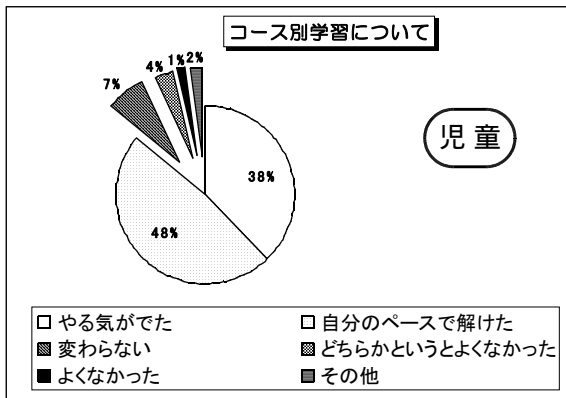


平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 指導方法・指導体制について

- 基礎・基本の確かな定着をねらい，指導の重点教科をTTで指導することは，個に応じた指導ができ，児童一人一人の見取りや評価がより確かになってきた。
- 指導案の検討会は，教材に対する考え方や支援の手だて等を具体的に話し合うことができ，指導力の向上につながる機会となった。
- コース別学習の展開は，児童にとってやる気を高め，自力解決の態度を養う手だてとなった。
- 学校だより等での保護者への理解を求める取り組みやアンケート調査結果から保護者の多くは，個に応じた指導の取り組みを理解し，コース別学習の継続を望んでいることが分かった。



< 2 ~ 6年児童，その保護者 10月30日調査 >

- 自力解決のヒントコーナーの設置で，積極的に学ぶ児童の姿が多く見られた。

(2) 教材の開発について

- 色の工夫や問題数を考慮した学習シートは，進んで学ぼうとする態度を育てる有効な手だてとなった。

(3) 評価を生かした指導について

- TTの授業は，授業の展開を相互評価したり，T2が児童の学びを記録する役割を担ったりすることでができ，個への支援計画を立てるのに有効であった。
- 自己評価の継続的な実施により，自己を理解し，学びを自分自身のよさや発見ととらえることができるようになってきた。

2 今後の課題

- 個への支援を確実にする個人カルテの工夫改善
- 年間指導計画への指導重点単元及び学習支援ボランティア活用の位置づけ
- 学力の変容を捉えるためのよりよい方法の研究
- コンピューターを活用した補充的・発展的な学習
- 固定式の教科担任制
- 小中の連携を進めるフロンティアティーチャー研修会の実施

学力等把握のための学校としての取組

調査項目	目的	内容	時期
1 学習に対する保護者の願いや考え	・保護者の願いや保護者が見た家庭での児童の姿を知り、指導に生かす。	・家庭生活で感じていること（自主学習の様子、土日の過ごし方、地域との関わり等）、子供への願い ・学習支援のできることに	14年 2月
2 県学力診断のためのテスト	・児童の実態を県や全国の状況と比較し、指導に生かす。	・教科（国語、算数）の観点別内容（2年生～6年生） ・県学力診断テスト（国語、算数、社会、理科）（4年生～6年生）	15年 4月
3 児童の学習に対する意識調査	・児童の学習における思いや願い、実態をとらえ分析し、指導方法や指導体制の工夫に生かす。 ・児童の夢や目標から、個を伸ばす支援方法を探る。	・教科の学習、家庭学習の現状、授業の形態、夢や目標等 ・個人カルテに記入（次年度に引き継ぐ）	15年 6月
4 診断テスト単元構想実践後の児童の思い	・指導法や体制の評価と児童の基礎的・基本的な内容の定着を考察し、次の単元に生かす。 ・指導方法や指導体制、教材、評価について児童の考えを把握し、次の単元の構想に役立てる。	・単元の基礎的・基本的な内容  ・学習の楽しさや成就感、コース別学習等についての感想	通年
5 県学力診断のためのテスト	・児童の観点別評価を分析し、取組の成果と課題を明らかにし、次年度の指導に生かす。	・教科（国語、算数）（1年生～6年生）	16年 2月
6 県学力診断のためのテスト	・前年度の結果と比較し、指導方法や形態を見直し、今後の指導に生かす。	・県学力診断テスト（国語、算数、社会、理科）（4年生～6年生）	16年 4月
7 児童の学習への意識調査	・児童の学習における思いや願い、実態を分析し、指導方法や指導体制の工夫に生かす。	・教科の学習、家庭学習の現状、授業の形態、夢や目標等（前年度の項目を基本に）	16年 6月
8 保護者への取組に対する調査	・子供の学習に対する保護者の考えをつかみ、家庭との連携を見直す。	・家庭での自主学習の様子、学習に対する願い等	16年 6月
9 単元ごとの診断テストのまとめ	・児童の身に付いた基礎的・基本的な内容を分析し、2年間の成果と課題を明らかにするとともに、次年度の指導に生かす。	・教科の基礎的・基本的な内容（1年生～6年生）	17年 2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究協議会の実施	日時 平成15年11月27日（水） 会場 本校 対象 県内のフロンティアスクール、県北管内の小・中学校の職員 目的 研究内容及び研究の実践を他校や他の地域に紹介する。
* ホームページに追加登録	本校における研究協議会資料（プレゼンテーションの内容）の公開 他県の学校から本校の取組を知ったとの連絡を受けた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無